

“里親”ってなあに？

(きょう
あす) 社会がこどもを守り
こどもが社会をつくる



山上有紀さん

たの愛の手を」は、里親を探す子どもたちが新しく家庭を得ています。

山上さんの話の中で、あまりの日

もたちを紹介し続けて50年、今春までに1500人を超える子どもたちが新しく家庭を得ています。

「普段では経験できないことを学ぶことができました」「アドバイスをこまめにくれる人や、頭をしぼってひねり出すまで我慢して待つて下さる人もいて、それを指導方針があるのだなと感じました」「死亡宣言のブースが一番難易度が高かった。家族の気持ちがわからないではなく、その気持ちを受け止める覚悟がまだ足りないのだと思いました」など、多くの感想をいただきました。



約100人の参加で大盛況

5月21日、みみはら高砂クリニックにて、医学部高学年向けの体験型企画「耳原総合病院臨床セミナー」、絶対に断つてはいけない当直24時」を開催しました。このセミナーは、民医連の研修や医療を広く知つてもらうことを目的に2005年から開催され、近年では研修医を中心にして、半年ほど前から何度も打合せを重ね、企画を作り上げてきました。耳原総合病院だけでなく、西淀病院や他県連

の医師、また当院で初期研修を終え、現在在民医連で働いている医師にも参加協力してもらっています。

今年は全国から医学生が26人、医師、看護師、セラピスト等多種にわたり約100人が参加。スペシャルゲストとして、6月から赴任された藤本卓司医師にて、6月から赴任された藤本卓司医師のもお越しいただき、大盛況のうちに終えられました。

実際に当直帯に起きた症例を研修医と

(耳原総合病院医局事務課)
[医学担当] 宅田 由平

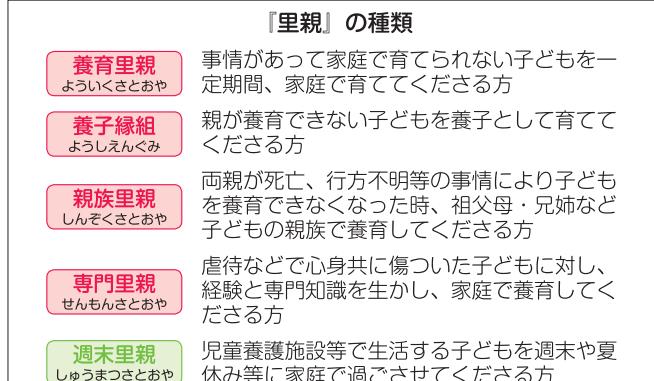
里親化アートワーク・ワークショップ

6月15日、「子どもの里親運動ってなあに？」と題し、耳原総合病院5階会議室にて、公益社団法人家庭養護促進協会ソーシャルワーカー・山上有紀さんからお話をうかがいました。

「家庭養護促進協会」は、さまざまなもので親に育てられない子どもたちのための里親開拓運動を50年以上にわたって展開してきた民間の団体です。毎日新聞連載「あなたの愛の手を」は、里親を探す子どもたちが新しく家庭を得ています。

山上さんの話の中で、あまりの日もたちを紹介し続けて50年、今春までに1500人を超える子どもたちが新しく家庭を得ています。

| 『里親』の種類 | |
|-------------------|--|
| 養育里親 よういくさとあや | 事情があつて家庭で育てられない子どもを一定期間、家庭で育ててくださる方 |
| 養子縁組 ようしえんぐみ | 親が養育できない子どもを養子として育ててくださる方 |
| 親族里親 しんぞくさとあや | 両親が死ぬ、行方不明等の事情により子どもを養育できなくなった時、祖父母・兄弟など子どもの親族で養育してくださる方 |
| 専門里親 せんもんさとあや | 虐待などで心身共に傷ついた子どもに対し、経験と専門知識を生かし、家庭で養育してくださる方 |
| 週末里親 しゅうまつさとあや | 児童養護施設等で生活する子どもを週末や夏休み等に家庭で過ごさせてくださる方 |



歯科衛生士 募集！

【常勤】月給22万円～
【パート】時給1,309円～

前職の経験を考慮し加算します。

5月にリニューアル
OPENしました！



●問い合わせ
社会医療法人 同仁会 耳原歯科診療所
〒590-0821
大阪府堺市堺区大仙西町6-184-2
☎ (072) 245-2912 担当／三宅

医学生体験型企画

絶対に断つてはいけない当直24時

して擬似体験し、最後には上級医からのフィードバックをもらいます。医学生は突然電話で呼び出され、様々な現場に向かい対応してもらいます。今回は新たにグラム染色などをベースを増やし、過去最多の20ベースとなりました。

「普段では経験できないことを学ぶことができました」「アドバイスをこまめにくれる人や、頭をしぼってひねり出すまで我慢して待つて下さる人もいて、それを指導方針があるのだなと感じました」「死亡宣言のブースが一番難易度が高かった。家族の気持ちがわからないではなく、その気持ちを受け止める覚悟がまだ足りないのだと思いました」など、多くの感想をいただきました。

(前略よりつづき)
立命館大学産業社会学部教授 都市社会学者・同仁会理事 リム・ボン

「ふれあいエントラーンス」のそもそも地域交流ゾーンの負担額は1億円とされているが、これは建設工事費の1／65である。果たして、地域交流ゾーンの価値は建設コストの1／65程度のものなのか？その意義について、もう一度原点に立ち返って議論してほしい。普通の病院にどうまるいチャンスであり、のちのちと、今後40年ほど活用するところになる。つまり、2度となる

そのこと

「ふれあいエントラーンス」の意味もなくなる（むしろ、なぐした方がよい）。そして、いつたん建設工事が完了する

後悔するのか、それともこのいチャンスであり、のちのちは少し無理をしてでも踏ん張るのか、覚悟が問われている。

(つづき)
連載

耳原総合病院建替え事業
にみる協同の思想

その8



※文章中の肩書は
当時のものです。